

中国体育と本学「生涯スポーツ」との違い

—本学留学生アンケートより—

平岡 英樹

抄録:本研究は体育の授業方法研究の基礎とするために、中国人留学生を対象として本学体育授業「生涯スポーツ」に関するアンケート調査を行った。結果は次の通りであった。

- ①本学生涯スポーツで行っているバスケットボールとバレーボール、バドミントン、卓球について「とても楽しかった・だいたい楽しかった」にほぼ全員が回答した。
- ②感想は「健康に役立つ」と「楽しみに役立つ」、「友人関係に役立つ」に全員が回答した。
- ③中国体育との違いの肯定的感想は「健康的」、「自主的」が多かった。しかし、「覚えやすいとは思わない」に1/3、「難しい」に1/2の留学生が回答した。

以上のことから、本学生涯スポーツの目的である「生涯楽しく行うスポーツへの理解」に沿った感想を得ることが出来た。一方、「分かりにくい」が推察され、今後の課題を見出すことが出来た。

I はじめに

現代社会は、交通手段の発達、仕事の過密化、パソコンやゲームの普及、塾などの習い事など、様々な理由により、子どもから大人までスポーツや運動をする機会が少なくなっているのが現状である。それらが誘因となる慢性的な運動不足や成人病、ストレス、肥満またそれらの低年齢化が大きな社会問題となっている。

本学体育「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」では「スポーツや運動の重要性や楽しさを知り、健康の重要性を理解することによって、健康への意識を高め、生涯を通じ積極的にスポーツや運動に親しむことができるように」を目的に授業を行っている。

一方、本学中国人留学生が昼休み・空き時間を利用し、よくバスケットボール、バドミントン、卓球を楽しんでいる。この様子は日本人学生より多く見受けられる。

中国の学校体育に関する研究として、片岡が「21世紀初頭における中国体育のカリキュラムの特色について」の研究で「中国の大学は日本以上に条件面での格差があることから、多くの大学がこの(2002年交付の全国大学体育課程教学指導要綱に沿った)具体例のように実施していると一般化することは出来ない。しかし、体育カリキュラム改革の方向は日本の多くの大学で行われている『オープン型体育カリキュラム』である」¹⁾と述べている。この報告から、中国における体育が1992年の指導要綱での「体力・運動能力の全面発達、基本技術と技能・愛国主義・集団主義・精神の育成」から、自由で選択的なカリキュラムの多様性へと進んだと思われる。

また、出雲らは、「外国人留学生の大学入学以前の体育・スポーツ経験に関する調査研究」において「中国では他の国と比べて体育の授業に面白みや楽しさを感じられない傾向がある。授業を展開する上で出身国の体育・スポーツ種目経験の内容を把握することも必要であろう」²⁾と述べている。

そこで、本研究では、本学中国人留学生がどのような体育への感想をもっているのか、「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」への感想をも含めて調査し、今後の授業改善の基礎とする。

Ⅱ 方法

アンケートの内容は「中国で経験した体育の種目と感想」と「生涯スポーツⅠ・Ⅱの感想と中国での体育との違いの感想」である。調査対象者は、本学外国語学部在籍の中国からの留学生のうち、アンケート調査に協力した41名である。調査は平成23年11月中旬に行い、質問紙法を用いた。分析は単純集計とした。

なお、質問項目は先行研究³⁾を基に設定した。

Ⅲ 結果と考察

1 中国での体育経験と感想

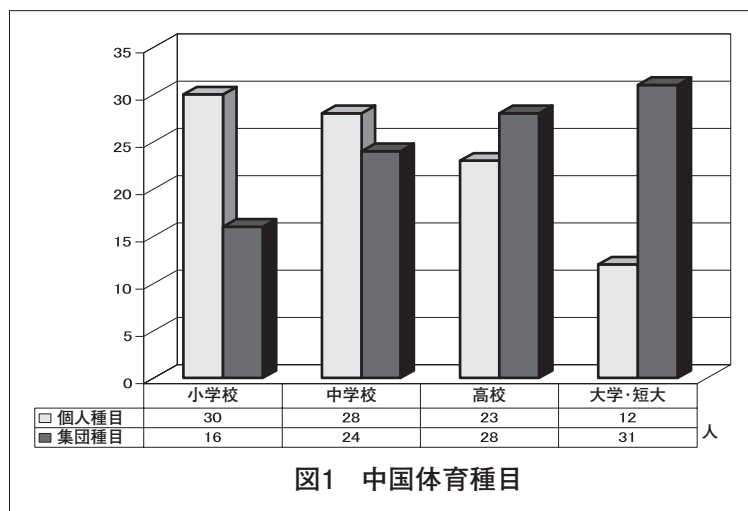


図1は中国での体育の種目に関する質問である。

個人種目は小学校から、中学校、高校、短大・大学と進むほど少なくなり、集団（団体）種目は小学校から、中学校、高校、短大・大学と進むほど多くなる傾向があった。

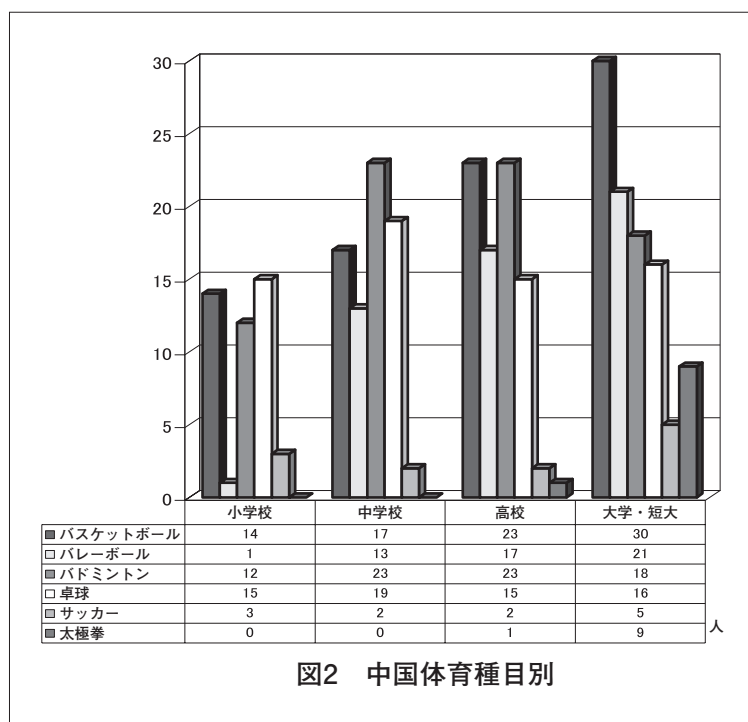


図2は中国で経験した体育の具体的な種目名の質問である。結果は次の通りである。①バスケットボール、バレーボールは学歴が進むほど多く、図1の集団種目としての関係が推察される。②バドミントンは中学校・高校で多い傾向にあった。③卓球は半数の経験が見られた。中国では卓球の授業が多く実施されているイメージがあるが、異なる結果であった。

④太極拳は大学での経験があった。日本の体育では行われることが少なく、中国としての特質として見られた。

図1、図2から次のことが考えられる。

日本における「学習指導要領」での小・中・高校の体育の考え方は次の通りである。

①心と体を一体としてとらえる。②運動に親しむ資質や能力を育てる。この2つは中学校では「積極的」に取り組み、高校では「生涯にわたって」を見ずえて学習させる。③健康の保持増進、体力の向上をめざす。これは、小・中・高校共通である。

さらに、④小学校では「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」、中学校では「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」、高校では「明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」として生活に生かす目的がある。

日本における体育の内容は多岐に渡り、次の通りである。

小学校では、〈1・2年〉基本の運動、ゲーム、〈3・4年〉基本の運動、ゲーム、器械運動、水泳、表現運動、保健、〈5・6年〉体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健である。中学校では、体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス、体育に関する知識である。高校では、体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス、体育理論である。

以上から、本学留学生の体験した体育は日本の体育より、多様ではないことがうかがえた。この結果は先行研究³⁾と同様である。

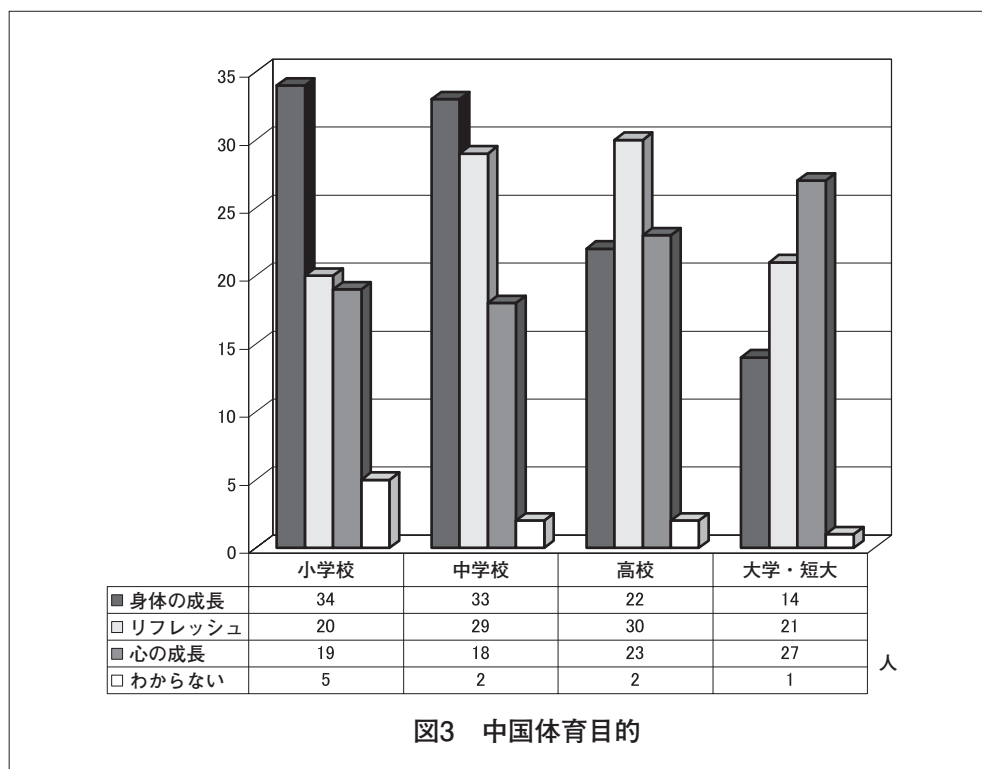


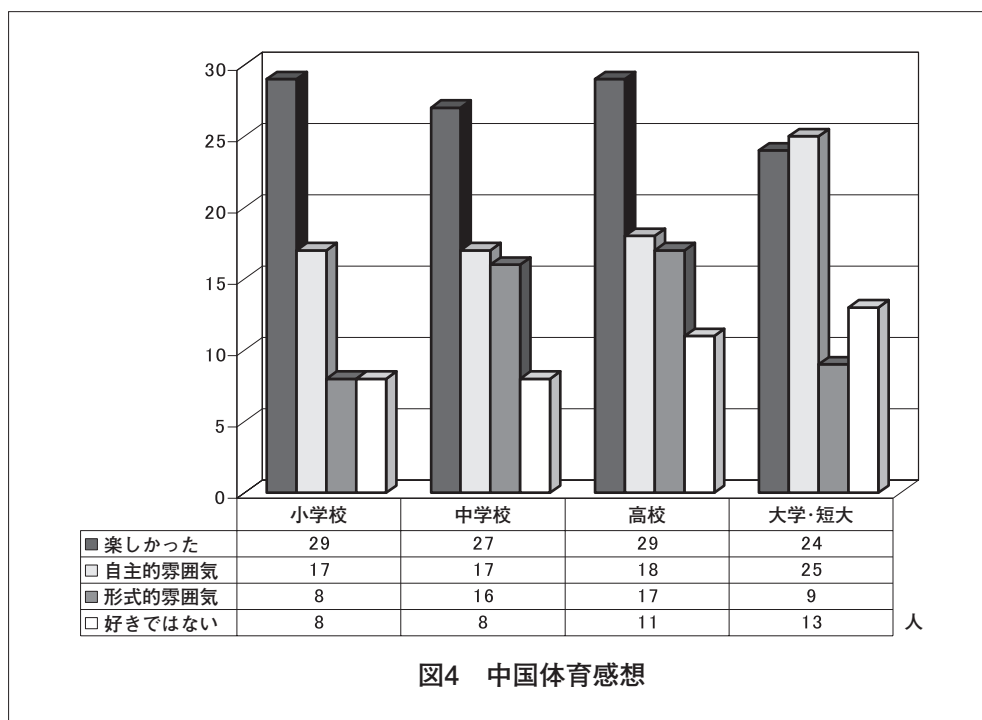
図3は中国での体育の目的の思いへの質問である。結果は次の通りある。

①「身体の成長」は小・中学校が多く、中学から高校にかけて減少している。②「リフレッシュ」は中高が多い。体育の授業は年齢とともに自由なイメージとなり、大学では「リフレッシュ」感が増えると思われたが、異なる結果であった。③「心の成長」は学歴とともに増加した。④「わからない」は少数であり、ほぼ目的を理解して取り組んでいたことが分かった。

図4は中国での体育の感想である。結果は次の通りある。

- ①「楽しかった」の感想は小・中・高校、大学・短大ともほぼ同じ人数だった。②「自主的雰囲気」は、小・中・高校はほぼ同数で、大学では多い。③「形式的雰囲気」は中・高校が多く、小学校と大学・短大でほぼ同数であった。④「好きではない」では、学歴が進むほど増えている。

図3と図4から、中国の体育の授業は自由性が多いとは言えない傾向が推察された。この結果は先行研究²⁾と同様である。



2 「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」経験者の感想

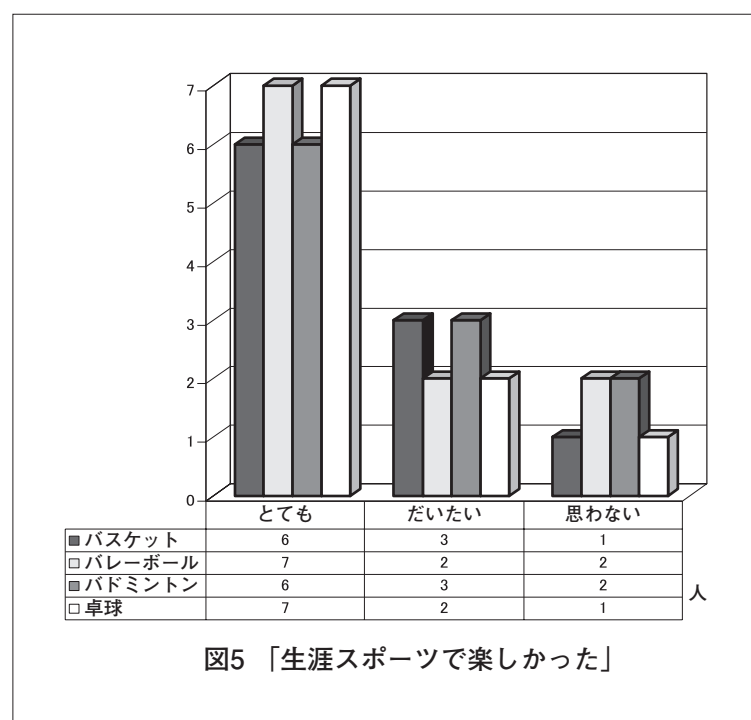


図5は「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」経験者17名の「楽しかったか」の質問である。

結果は次の通りである。

- ①全ての種目で「とても」と「だいたい」で楽しんでいる。
 ②バレーボール・バドミントンが楽しくないと答えた学生が各2人である。
 ③バスケットボール・卓球が楽しくないが各1名である。

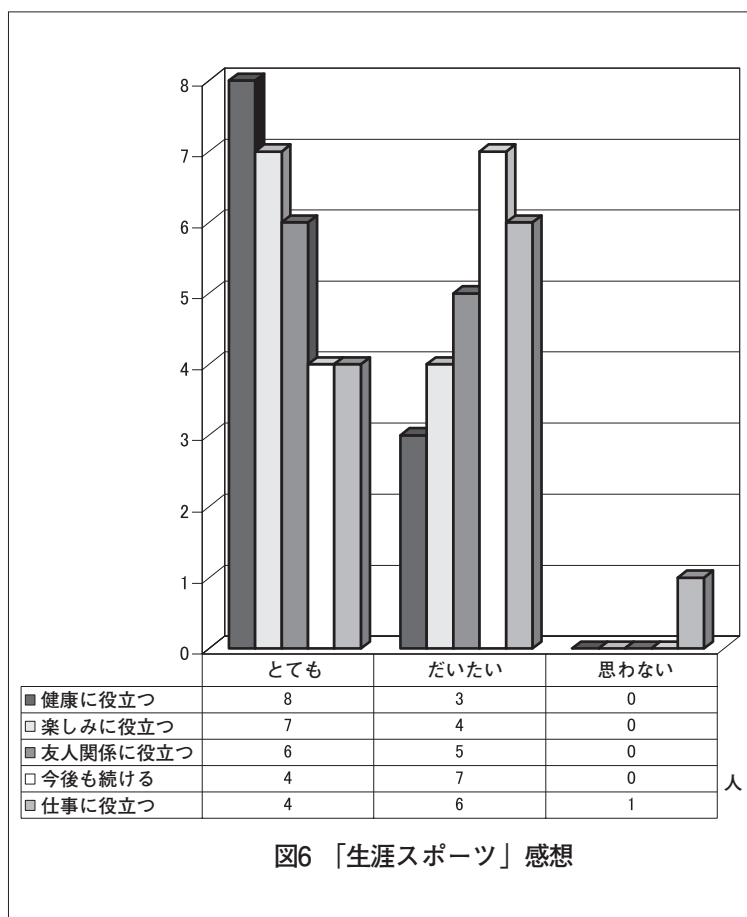


図6は「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」経験者への「役立ち感」の質問である。

結果は次の通りである。

- ①「とても」「だいたい」でほぼ全員が何らかの役に立つと考えている。
- ②1人が仕事の役に立つとは思えないと思っている。

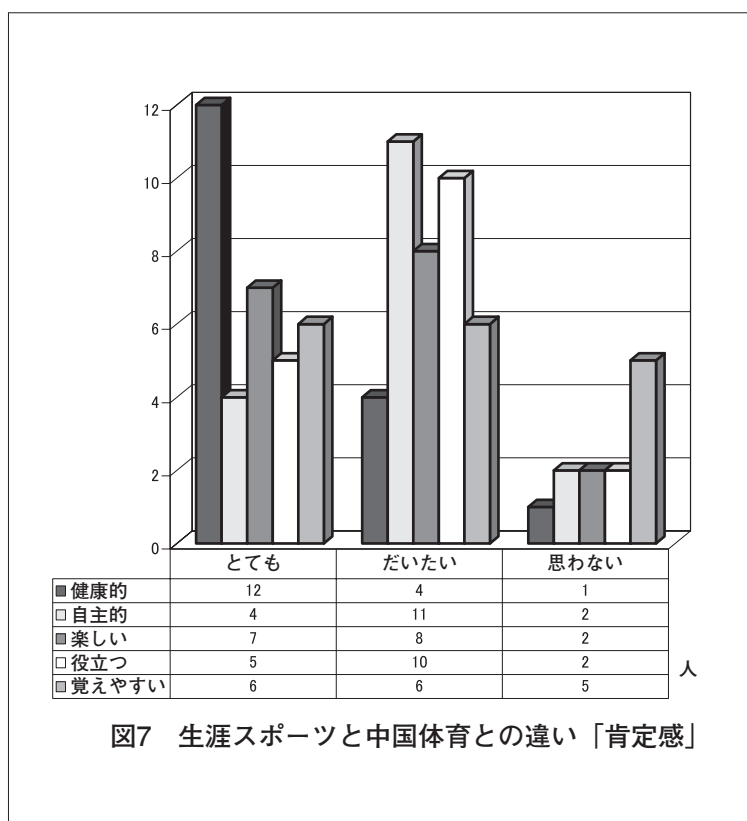
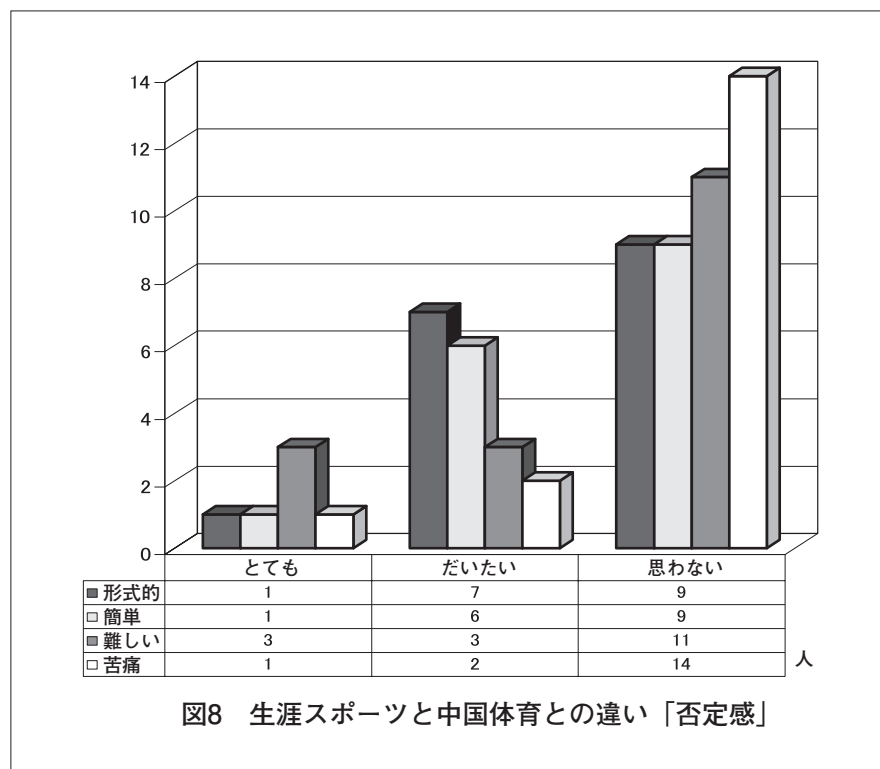


図7は「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」経験者への「中国スポーツとの違い肯定感」の質問である。

結果は次の通りである。

- ①中国の体育より生涯スポーツの方がプラスのイメージが多い。
- ②特に「健康的」なイメージは「とても」が非常に多い。
- ③覚えやすいとは思っていない学生が5人であった。

図8は「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」経験者への「中国スポーツとの違い否定感」の質問である。



結果は次の通りである。

- ①生涯スポーツの方が、自主的な雰囲気、楽しい。
- ②「難しい」の「とても」と「だいたい」に6人の留学生が回答した。
- ③マイナスイメージは殆ど無い。

以上の図5～8の結果から次のことが推察された。「生涯スポーツ」の目的にそって「健康で楽しいスポーツ」の授業は行われていることがわかった。しかし、マイナスイメージは無いものの、決して覚えやすいとは言えないということが分かった。他の科目同様に生涯スポーツの授業においても、言語を使って知識や技術の習得、ルール説明等をしているため、言葉の壁が関係していることも考えられる。

そして、教員が中国での体育経験を知り、どのような授業を行うかが今後の課題として見えてきた。

Ⅳ まとめにかえて

本学中国からの留学生の様子と、調査結果から、次のことが分かった。

- ①生涯スポーツ履修者でバレーボールが得意そうな留学生はいない。②卓球もそれほど得意そうではない。
- ③授業以外でスポーツをしている留学生は、バスケットボール、バドミントン、卓球の3種目であり、特にバスケットボールが好まれる傾向にある。④授業以外（クラブ活動等）で経験してきただろうと思われるスポーツで多いのはバスケットボールである。
- ⑤生涯スポーツを履修する学生の殆どは「2年生で生涯スポーツが無くなるのはいやだ」と言っている。

以上のことから、中国からの留学生は体育館でスポーツをしていて、身体を動かすことを好んでいることがわかった。留学生達の意欲を損なわずに、生涯を通じ積極的にスポーツや運動に親しむことに結びつく授業の方法を検討することが、今後の課題である。

資 料

中国の学校教育における「体育」に関するアンケート

このアンケートは研究のために用いるものです。個人的な情報には配慮し、公開しません。

() には○を、_____には言葉などで記入してください。

1 現在のあなたのことについて教えてください。

学年・・・(_____) 年生 年齢・・・_____才

性別・・・() 男性 () 女性

留学の種類・・・() 1年生入学 () 2年編入生 () 3年編入生

() 科目等履修生

中国での最終学歴（日本に来る前の学歴）「_____」卒業または修了

2 あなたの中国での学校「体育」の授業への考えについて教えてください。

A= 小学校、B= 中学校、C= 高等学校、D= 短大、E= 大学、F その他「_____」

の該当する学校に○を、該当が無い場合×にしてください。

① 種目について

A= 小 B= 中 C= 高 D= 短 E= 大 F= そ

体操・陸上など個人で行う授業が多かった・() () () () () ()

バスケットなど集団で行う授業が多かった・() () () () () ()

「バスケットボール」の授業を受けた・・・() () () () () ()

「バレーボール」の授業を受けた・・・・() () () () () ()

「バドミントン」の授業を受けた・・・・() () () () () ()

「卓 球」の授業を受けた・・・・() () () () () ()

「その他_____」の授業を受けた・() () () () () ()

② 目的について

A= 小 B= 中 C= 高 D= 短 E= 大 F= そ

体の成長のためだと思った・・・・() () () () () ()

授業の合間のレフレッシュの時間だった・() () () () () ()

心の成長のためだと思った・・・・() () () () () ()

目的が分からなかった・・・・() () () () () ()

③ そのときの授業の感想について

A= 小 B= 中 C= 高 D= 短 E= 大 F= そ

楽しかった・・・・() () () () () ()

好きではなかった・・・・() () () () () ()

自主的な雰囲気だった・・・・() () () () () ()

形式的な雰囲気だった・・・・() () () () () ()

3 「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」について教えてください。

① 北海道文教大学で「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」を履修しましたか

() 履修した・・・以下の思うところ一つに○をつけて下さい。

	とても思う	だいたい思う	思わない
「バスケットボール」は楽しかった・・・()	()	()	()
「バレーボール」は楽しかった・・・()	()	()	()
「バドミントン」は楽しかった・・・()	()	()	()
「卓球」は楽しかった・・・()	()	()	()
「その他_____」は楽しかった・・・()	()	()	()
今後の健康の役に立つ・・・()	()	()	()
今後の楽しみの役に立つ・・・()	()	()	()
今後の仕事の役に立つ・・・()	()	()	()
今後の友人関係の役に立つ・・・()	()	()	()
今後も運動・スポーツを続けようと思う・・・()	()	()	()

() 履修しなかった・・・以下の理由の思うところ一つに○をつけて下さい。

	とても思う	だいたい思う	思わない
単位が足りていたから・・・()	()	()	()
楽しくないと思ったから・・・()	()	()	()
他に運動をやっていたから・・・()	()	()	()
必要ないと思ったから・・・()	()	()	()
その他・・・理由を書ってください _____			

② 「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」と中国での体育との違いについて思うところ一つに○をつけて下さい。

	とても思う	だいたい思う	思わない
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が自主的だ・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が形式的だ・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が楽しい・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が難しい・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が苦痛だ・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が簡単だ・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が役立つ・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が覚えやすい・・・()	()	()	()
「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」の方が健康的だ・・・()	()	()	()

文 献

- 1) 片岡義則, 「21 世紀初頭における中国体育のカリキュラムの特色について」『大学体育学』6 卷 (1) : 65, 2009.
- 2) 出雲輝彦・木幡日出男・川北準人, 「外国人留学生の大学入学以前の体育・スポーツ経験に関する調査研究」『大学体育学』6 卷 (1) : 87, 2009.
- 3) 出雲輝彦・木幡日出男・川北準人, 「外国人留学生の大学入学以前の体育・スポーツ経験に関する調査研究」『大学体育学』6 卷, 2009.

The Differences between Chinese Physical Education and “Life-long Sport” Recreational Physical Education :

Based on Questionnaires Completed by Foreign Students at this University

HIRAOKA Hideki

Abstract: This study utilized questionnaires about this university’s “life-long sport” recreational physical education that were distributed to Chinese students. The goal was to gain data on physical education methodology. The findings were as follows.

1. The majority of the participants responded that they either ‘greatly enjoyed’ or ‘enjoyed’ the “life-long sport” recreational physical education activities of basketball, volleyball, badminton, and table-tennis provided at this university.
2. All participants responded that the “life-long sport” recreational physical education activities provided at this university were ‘beneficial for health’, ‘fun’ and ‘useful for building good relationships with other students’.
3. When questioned on how the physical education activities offered at this university differ positively from Chinese physical education, many participants said that they were ‘healthy’ and ‘independent’. However, one third of the participants responded that ‘the fundamentals of these sports were not easy to learn’, and one half responded that the sports themselves were ‘difficult’.

After consideration of these results, it is possible to draw the conclusion that the intended purpose of providing fun and enjoyable “life-long sport” recreational physical education at this university and fostering ‘the understanding that “life-long” sport is valuable and fun and can be played through your life’ has been confirmed through this research. It is also possible to conclude that the issue of ‘being difficult to learn’ identified through this research is something that should be resolved in the future.